

第5回

平成19年度

全国環境連全国大会

—浄化槽が拓く循環型社会づくり—

2007.10.19 [fri]

岡山プラザホテル (岡山市浜2-3-12)



後 援 環境省・岡山県・岡山市・倉敷市・岡山県市長会・岡山県町村会

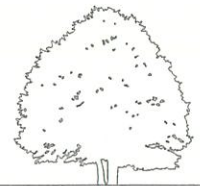
協 賛 財団法人日本環境整備教育センター・社団法人全国浄化槽団体連合会・全国合併処理浄化槽普及促進市町村協議会・社団法人岡山県環境衛生協会・岡山県合併処理浄化槽普及促進協議会・社団法人岡山県浄化槽団体協議会・岡山県浄化槽施工協同組合・岡山県浄化槽協会・財団法人岡山県健康づくり財団・社団法人岡山環境検査センター・社団法人倉敷環境検査センター

主 催 / 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

開催担当 / 全国環境連中国地区協議会 (岡山県環境整備事業協同組合)



第5回全国環境連全国大会の開催に当たって



本日、ここに第5回全国環境連全国大会を開催しましたところ、ご多忙中にもかかわらず、議会及び行政関係者並びに関係団体の多くの皆様のご臨席を賜り、盛大な催しとなりました。厚く御礼を申し上げます。

また、平素より全国環境連の活動に多大なご支援、ご指導をいただき、重ねて御礼を申し上げます。

全国環境連は、平成15年5月に発足し、わが国の健全で恵み豊かな生活環境の保全に一貫して努力をしているところであります。国が循環型社会形成の推進に取り組んでいる中、私どももこの重要施策にこうした運動を展開してきているところであります。

特に、現状の国、市町村の財政状況の悪化を踏まえ、生活排水処理の将来計画の変更に向け積極的に取り組んでいるところでございます。

昨年度の連合会の事業として、わが国で既に兆候が見られる人口減少社会の中、国民の生活環境基盤である将来の生活排水処理について、地方財政の逼迫に対応する具体的方策について調査研究を行い、「生活排水対策の現状と今後の課題」と題して報告書を取りまとめました。

この報告書を関係する県、市町村、関係団体等に、今後の行政施策の一助としていただくべく、お願いしたところであります。

また、本年度より情報化社会に対応すべく、各県組合員と連合会、行政関係機関、関係団体等との連携を深め、効率的な情報の共有化を目指し、独自の情報システムの構築に取り組んでおります。

私どもは、今後、ますます自己研鑽に努め、組織の総力を挙げて地域住民のニーズに対応すべく、地域と連携した事業を展開してまいります。

このためには、本日、ご臨席を賜りました多くの関係者の皆様方のさらなるご支援、ご指導が必要となりますので、今後ともよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本年度は全国環境連が発足して以来、初めての、地方開催となり、大会テーマを「浄化槽が拓く循環型社会づくり」として地方の特色を生かした大会を目指して準備してまいりました。

この大会を契機に、連合会の当初の基本理念を再確認していただき、一層の団結と協調を期待しまして、あいさついたします。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会 長 鳥越 澄夫

岡山県環境整備事業協同組合

理 事 長 八田 富夫

祝 辞



環境整備議員連盟会長 自由民主党経理局長

Kazuaki Miyaji

衆議院議員 宮路 和明

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第5回全国大会のご盛会を心よりお慶び申し上げます。環境連に結集された皆様方が、日頃より国民の生活環境の整備、向上にご尽力されておられることに対し、深く敬意を表するものであります。

最近、世界各地において、季節外れの大雨や干ばつによる大規模な気象災害が発生したり、また、氷河や海水、永久凍土の融解が報じられる一方、九州・四国を北限とするナガサキアゲハが最近では関東地方に現れるなど生態系の変化も起こっています。これらの現象は温室効果ガスの増加による地球温暖化に起因すると言われてしています。

政府は、今年6月、「21世紀環境立国戦略」を閣議決定し、特に今後1・2年で着手すべき地球温暖化対策等の重点的な環境政策の方向性を八つの戦略としてまとめました。

その中で、3Rすなわちリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）を通じた持続可能な資源循環を提唱し、今年度中に循環型社会形成推進計画の見直しを行うとともに、わが国がG8の先頭に立って3Rの推進に取り組み、アジアや世界で3Rを推進するための国際協力を充実することとしています。

私は、自由民主党環境整備議員連盟の会長として、国民生活にとってかけがえのない環境を整備して、「美しい国日本」と豊かな地域社会を目指すとともに、地球環境の負荷を低減するため、同志と相携えて、3Rと廃棄物処理政策の推進に鋭意取り組んでおります。

このようなときに当たり環境連におかれては「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマに全国大会を開催され、情報の交換、未来への決意を固められますことは、誠に時宜を得たものであり、大きな成果を期待するものであります。

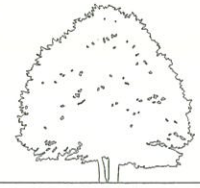
そして、循環型社会づくりを目指し、実現するためには、永年にわたって生活環境の保全に尽力されてこられた環境連の会員の皆様の役割は今後ますます重要なものとなって参ります。ぜひ、これまで培ってこられた知見と豊富な経験を生かしていただき、さらに、創造的で先進的なリサイクル技術や廃棄物処理方法の開発に挑戦していただきたいと存じます。

また、このような循環型社会づくりに安心してご努力いただくためには、先ず、皆様方の事業及び経営の安定が図られることが肝要であります。そのためにも、我々は関係施策の充実を図って参りたいと存じております。

終わりに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご活躍を祈念してお祝いのご挨拶と致します。



全国環境連第5回全国大会祝辞



環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部

Hideto Yoshida

部 長 由田 秀人

全国環境連第5回全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

環境連の皆様方が、一般廃棄物の処理、浄化槽の清掃など、日頃より生活環境の保全のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表する次第であります。また、本大会は、「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマとして3R活動を積極的に推進し、循環型社会づくりを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

さて、地球温暖化をはじめとする昨今の様々な環境問題は、人間の大量生産、大量消費、大量廃棄型の活動から生じる環境負荷の増大が、自然の物質循環の許容量を超えてしまったことに起因しています。持続可能な社会を目指すには、こうした社会・経済を見直して、循環型社会、低炭素社会、そして自然共生社会を一体的に実現していくことが必要だと考えられます。福田総理の今国会における所信表明演説においても、従来の大量生産、大量消費社会から決別し、つくったものを世代を超えて長持ちさせて大事に使う「持続可能社会」の構築を図り、地球環境に優しく、国民負担も軽減できる暮らしへの転換という発想をあらゆる部門で展開すべきであると述べられています。

自然の水循環をいかしながら効率的に汚水処理を行う浄化槽の普及は、持続可能な社会を目指す上で重要な取組の一つです。本年1月15日に、中央環境審議会浄化槽専門委員会から「浄化槽ビジョン」の御提言をいただきましたが、その中でも、浄化槽の幅広い意義が改めて確認されたところであり、このビジョンに沿って各方面において様々な取組が開始されております。

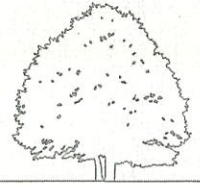
既に、市民団体の方々も水環境と浄化槽の意義について自ら啓発していこうと、「浄化槽フォーラム」を立ち上げられており、本年6月20日に「浄化槽フォーラム設立記念シンポジウム」が開催されました。

政府においても、循環型社会形成推進交付金によって、市町村の廃棄物処理を3R型に変える支援や、単独処理浄化槽の撤去費用に対する支援を充実させております。交付金を活用し、17年度からの3年間で、563の市町村において循環型の地域づくりの取組が始まっています。この取組により、し尿処理や浄化槽の管理という皆様方の役割がますます重要になってきます。

環境連の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力を御願いするとともに、環境連の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞



岡山県知事

Masahiro Ishii

石井 正弘

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第5回全国大会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、全国各地から岡山にお越しいただいた皆様を心から歓迎いたします。

私どもの日常生活に密着した浄化槽の維持管理につきましては、貴連合会会員の皆様の御尽力なしには成り立たないものであり、今日までの公衆衛生の向上と生活環境の保全への御貢献に対し深く敬意を表します。

本県におきましては、昭和63年度から補助制度を設けて、合併処理浄化槽の設置促進を図っており、今日までの累計基数は約6万7千基に達するとともに、浄化槽の法定検査率が全国トップクラスを維持しています。これはひとえに、貴連合会会員である「岡山県環境整備事業協同組合」の組合員各位の御尽力と御協力のたまものであります。

近年の処理技術の向上などに伴い、今や合併処理浄化槽の整備は市町村の生活排水処理対策の中心的な施策となっています。また、本県でも本年度からスタートした「新おかやま夢づくりプラン」において快適な水環境づくりの重点施策と位置づけ、一層の普及促進を図っているところです。

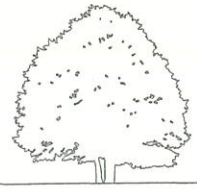
今後、さらなる浄化技術の高度化・多様化に伴い、維持管理もますます複雑化していくことが予想される中、貴連合会会員の皆様におかれましては、浄化槽管理の専門家として、さらに御研さんを重ねられ、快適な生活環境づくりに貢献くださるようお願い申し上げます。

なお、岡山は、日本三名園の一つ「岡山後楽園」や白壁の「倉敷美観地区」などの見どころや、備前焼などの伝統工芸品、岡山ばら寿司などの郷土料理やおいしい地酒など、多彩な魅力にあふれています。

どうかお時間が許す限り、秋の岡山路を御堪能いただきたいと存じます。

最後に、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後ますますの御発展と、会員の皆様方の御健勝と、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



岡山市長

Shigeo Takaya

高谷 茂男

本日は、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第5回全国大会が、岡山の地で、このように盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

皆さま方におかれましては、平素から、浄化槽の保守管理を通じて、快適で豊かな生活環境づくりに、大きな役割を担われていることに対しまして、深く敬意と感謝の意を表する次第です。

岡山市は、平成21年度に、政令指定都市への移行を目指しており、「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」を都市像に掲げ、都市機能の充実に取り組んでいるところです。

とりわけ、水環境の保全につきましては、市内の水路に、国の天然記念物である「アユモドキ」や、絶滅危惧種の「スイゲンゼニタナゴ」などの希少な野生生物が生息し、市民の財産ともなっていることから、特に力を注ぐべき行政課題と認識しております。

ご承知のとおり、污水处理施設の整備は、「公共下水道」、「農業集落排水施設」、「合併処理浄化槽」を3つの柱とし、それぞれの特徴を地域の特性とうまく組み合わせることで、効率的に進めることが大事であると言われてまいりました。

なかでも、合併処理浄化槽は、工期が2～3日と短いことに加え、工事費用も安く、公共下水道にも負けない優れた污水处理機能を有していることから、本市におきましても、効果的活用により、これからの地域の水環境の保全に、重要な役割を果たすものと期待しております。

この合併処理浄化槽の普及を促進するため、昭和63年度から補助金制度を導入しており、平成18年度の補助実績は、1,117基、約4億3千5百万円に達しております。

浄化槽の普及において、重要なことは、市民の皆さまに浄化槽のことを正しく知っていただき、浄化槽の仕組みや役割を理解していただくことです。

このため本市では、補助金事業と平行して、「浄化槽に関する啓発活動」や、「不適正浄化槽の解消」にも、積極的に取り組んでおり、浄化槽に対する市民の皆さまの信頼感を高めることができますよう、創意・工夫しているところです。

今後も、県、並びに関係団体の皆さまからのご意見、ご提言、あるいは技術的なご支援をいただきながら、浄化槽の普及促進を着実にすすめてまいりたいと考えております。

どうか会員の皆さま方におかれましては、蓄積された技術をさらに高められ、地域住民の生活向上と環境保全を支えていただきますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、「全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会」のますますのご発展と、皆さまのなお一層のご活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞



倉敷市長

古市 健三

Kenzo Furuichi

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第5回全国大会の開催を心からお祝い申し上げます。環境連の皆様方におかれましては、一般廃棄物の処理、浄化槽清掃など、日ごろから生活環境保全のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表する次第であります。

本市は、風光明媚な瀬戸内海、清流豊かな高梁川、緑豊かな山々と周辺のゆるやかな丘陵など、素晴らしい自然環境に恵まれており、その中で、かけがえのない貴重な歴史と文化を育んできました。この財産は、多くの先人たちの努力によって守られてきたものであり、現代社会に生きる我々は、より良い形で次世代の人々に引き継がなければなりません。

今日の大量生産や大量消費、使い捨て型の生活様式や嗜好の多様化などにより、環境への負荷は増大し、ひいては、すべての生物の生活基盤となる地球環境にも重大な影響を及ぼしています。循環型社会の構築には、一人ひとりが廃棄されるものを最小限に抑えて有効活用し、自然界から採取する資源を最小限として環境への負荷を減らす意識を持つ必要があります。

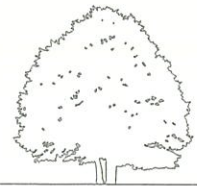
水環境の観点では、潤いと安らぎのある快適な日常生活を送るために、公共用水域の水質保全を目的に公共下水道の整備を進めています。

更に、下水道未整備地区に対する水洗化の施策として、地域の実情に応じた合併処理浄化槽の普及率向上にも努めているところです。

環境連の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力をお願いするとともに、環境連の今後ますますの御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いのことばとさせていただきます。



祝 辞



財団法人日本環境整備教育センター

Fumio Iriyama

理事長 入山 文郎

本日ここに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第5回全国大会が、「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマに、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴されました方々に心よりお喜び申し上げます。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業に常日頃より格別なるご協力、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

浄化槽法の目的に公共用水域等の水質保全が明示され、浄化槽は生活排水を処理する投資効率の高い恒久施設として明確に位置づけられるとともに、いまや、地域における生活排水対策の柱として、また、有効な循環型施設として水環境の保全に貢献し、社会的な評価を高めつつあります。さらには、その環境保全効果を身近に体験できる生活・環境実感型施設として環境教育の観点からも評価を高めつつあります。

しかしながら、一方では単独処理浄化槽が全国に600万基以上存在しており、水質汚濁に係る不信感が根強く存在しております。公共用水域等の水質汚濁防止の観点からも、浄化槽の信頼性確保のためにも、早急に単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換が必要であることは言うまでもありません。

転換に関する助成金が創設されたとはいえ、一般に、水質汚濁防止の目的の為だけでは、私費を投じてまでなかなか転換しようとならないのが現実であります。

社会的な啓発活動や環境教育の強化はもちろんのことですが、ディスプレイの導入や処理水の再利用など、トイレの水洗化以外のメリットも必要であると考えます。

また、し尿や浄化槽汚泥の海洋投棄の禁止になった今日、汚泥処理・リサイクルの問題が改めて問われております。周知の通り汚泥処理は水処理の宿命であり、これが適正に行われてはじめて生活排水処理が完結したといえます。

残念ながら、浄化槽の清掃実施率は全国平均で70%くらいと言われており、いくつかの市町村では、浄化槽の清掃は3年に一回で良いと指導していたり、ひどい場合はこの浄化槽は清掃が不要であると主張されていたりという問題も存在しています。

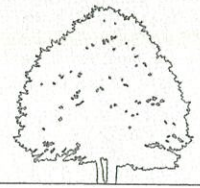
浄化槽の年1回の清掃の必要性を啓発し、100%の清掃実施率を確保することはもちろんですが、汚泥の減量化、有効利用に向けた汚泥処理体系の再構築が重大な課題であると考えます。

浄化槽を巡っては、まだまだクリアしなければならない様々な課題をかかえております。

当教育センターは、公益法人であり浄化槽管理士の指定試験・講習機関であります。元々、皆様方の業界の向上のため皆様方が設立した団体であります。今日まで、微力ながら浄化槽対策の推進、向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業の発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会の今後益々のご発展、ご活躍を心から期待申し上げますとともにご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念致しまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会 第5回全国大会開催を祝して



社団法人 全国浄化槽団体連合会

Tetsuo Matsushita

会 長 松下 鉄男

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第5回全国大会開催を心からお祝い申し上げます。

貴連合会会員各位はし尿、ごみ収集とその適正な処理に尽力され、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きな貢献を果たしてこられました。

市町村における一般廃棄物処理事業は、循環型社会づくりの土台となる社会システムとして、廃棄物から資源とエネルギーをできる限り回収していくシステムに転換していく必要があります。また、今後は脱温暖化社会構築に貢献する資源循環・エネルギー利用システムに変革していくことが重要だと言われております。このたび貴連合会が「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマに第5回全国大会を開催され、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R活動を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協同して循環型社会づくりをめざし実現するための決意を表明されることは誠に時宜を得たものと深い敬意を表すものであります。

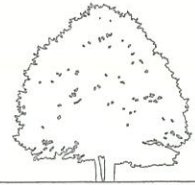
さて、今年に入り、環境省の中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会浄化槽専門委員会が「浄化槽ビジョン」をとりまとめられ、それを受け、具体的活動が動き出しております。たとえば、浄化槽の普及活動の一環としての浄化槽フォーラムの設立と設立記念シンポジウムの開催、浄化槽シンポジウムの開催、浄化槽普及に関する海外協力などであります。また、「浄化槽ビジョン」の眼目の一つが生排計画の早期見直しを通しての効率的・効果的な「浄化槽の整備区域拡大に向けての積極的設定」であり当連合会でも、スローガンの先頭に掲げ、推進することとしております。

当連合会としては今後とも、既存単独処理浄化槽の合併化に向けての運動、「浄化槽市町村整備推進事業」の推進に力を入れていくほか、美しい水環境を守るために会員団体とともに地域における効率的な生活排水処理施設の整備促進、適切な維持管理の確保、法定検査受検率の向上に努め、技術の開発研鑽と向上を図ってまいりたいと考えております。

我々浄化槽業界としましては浄化槽の信頼を高めるべく、上記諸事業に関連団体相連携して取り組んでいく決意でおりますので、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

第5回全国環境連全国大会 大会の目的



我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始された時から今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の健全で恵み豊かな生活環境の確保に一貫して努力を重ねてきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々、その度合いを強めている。

そのため「合特法」に基づく転換業務（補償）が、今や緊急の課題となっていることは言うまでもない。

業界においてもこの難局に当たり、積極的に英知を結集し、自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後においては、今年を「新しい挑戦の年」と位置付け、絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点からも業界での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

本大会は、「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型の社会づくりを目指し実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。





講 演



12:30～15:00 (5階「延養の間」)

I 12:30～13:20

● 演 題「一般廃棄物行政の動向について」

講 師：環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

廃棄物対策課長 関 莊一郎氏

プロフィール

昭和53年に東京大学工学部都市工学科を卒業し環境庁(当時)に入庁。大気、水質、公害病、地球温暖化、ダイオキシン、廃棄物等の環境保全対策を担当。また、横浜市役所、タイ政府環境庁、世界銀行に出向し、自治体や開発途上国の環境対策にも従事。環境省環境管理局大気環境課長、廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長を経て、平成18年7月から廃棄物対策課長。

II 13:25～15:00

● 演 題「生活排水処理の現状と今後の課題について」

講 師：財団法人日本環境整備教育センター

調査研究部長 工学博士 国安 克彦氏

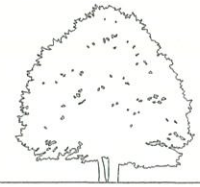
プロフィール

昭和54年から(財)日本環境整備教育センターで「小規模合併浄化槽の実用化に関する研究」、「生活排水系の高度化処理の実用化に関する研究」、「小型合併処理浄化槽の性能調査」、「地域特性に応じた排水処理計画の策定」など、し尿浄化槽や生活排水対策に関する数多くの調査研究に携わる。

また、し尿浄化槽性能評定委員(国土交通省)、技術士試験委員(文部科学省)、中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会浄化槽専門委員などの公職に就き生活排水対策の第一人者として活躍している。



大会式典

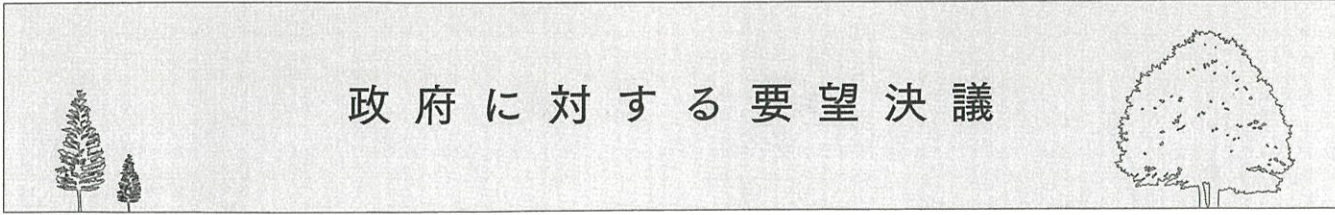


15:10～17:15 (5階「延養の間」)

- 開会の辞
- 物故者に対する黙とう
- 大会式辞
- 優良役員・優良従業員表彰
- 受賞者謝辞
- 政府に対する要望決議
- 大会スローガン
- 大会宣言

休憩 16:20～16:30

- 来賓祝辞
- 来賓紹介
- 祝電披露
- 閉会の辞



政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

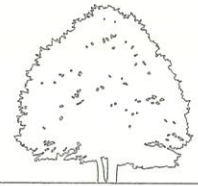
しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は、「合特法」に基づいて転換業務（補償）獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

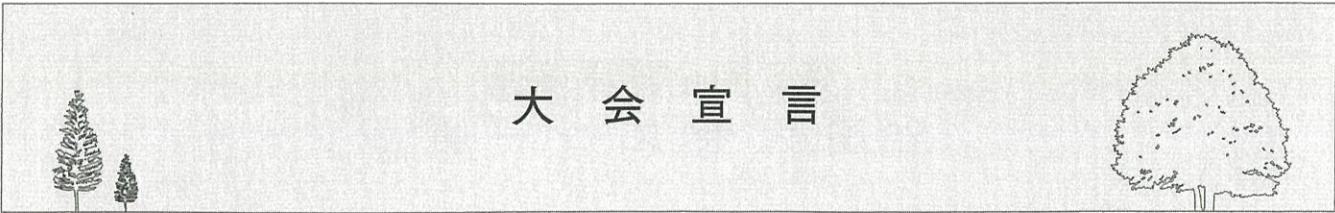
記

- 1) 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務（補償）の獲得またPFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の目的に配慮されるよう市町村において適切な対策が講じられますよう指導されたいこと。
- 2) 浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3) 政府は、平成18年3月「第3期科学技術基本計画（平成18～22年度）」の閣議決定を行い、重点投資をする研究課題を取り決めました。
そこで、技術革新の可能性のある浄化槽の分野についても、浄化槽の最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション（技術革新）創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4) 汚水処理施設の整備（下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再処理センター）については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5) ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。

第5回全国環境連
全国大会スローガン



1. 下水道の整備の進捗に伴う転換業務（補償）獲得
1. 不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・許可制度の適正な運用
1. 生活排水対策に優れた浄化槽の適正な維持管理と経済的かつ効率的な整備促進
1. イノベーション（技術革新）による事業の安定的発展と循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進
1. 情報収集システムの構築と情報提供の充実強化
1. 組織の充実強化と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の拡充



大会宣言

私達、一般廃棄物処理業者は市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の健全で恵み豊かな生活環境の確保のため一貫して努力を重ねてきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めてきている。

そのため、「合特法」に基づく転換業務（補償）が、今や緊急の最重要課題となっていることは言うまでもない。

業界においてもこの難局に当たり、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後においては、今年を「新しい挑戦の年」と位置付けて、絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという強い信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが何より重要である。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点からも業界全体での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を追究することが必要である。

本大会は、「浄化槽が拓く循環型社会づくり」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係団体が協働して循環型社会づくりを目指すものである。

さらに、私たちは組織拡大を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

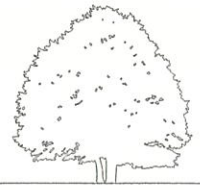
以上宣言する。

平成 19 年 10 月 19 日

第 5 回
全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全 国 大 会



懇 親 会



17:30 ~ 19:30 (4階「鶴鳴の間」)

- 開会の辞
- 主催者あいさつ
- 来賓祝辞
- 乾 杯
- 郷土芸能披露

名刀太鼓

昭和63年に先人たちの魂と心意気を受け継ぎ、備前・長船造剣の地にちなんで生まれたのが「名刀太鼓」です。

平成2年にオリジナル曲「刀工たちのレクイエム」を完成し、平成15年には名刀太鼓15周年コンサートの開催、平成17年に「まつりinハワイ」に出演し功労賞を受賞するなど、太鼓に新しい伝統芸能創造の願いを込めて、力強い活動を続けています。

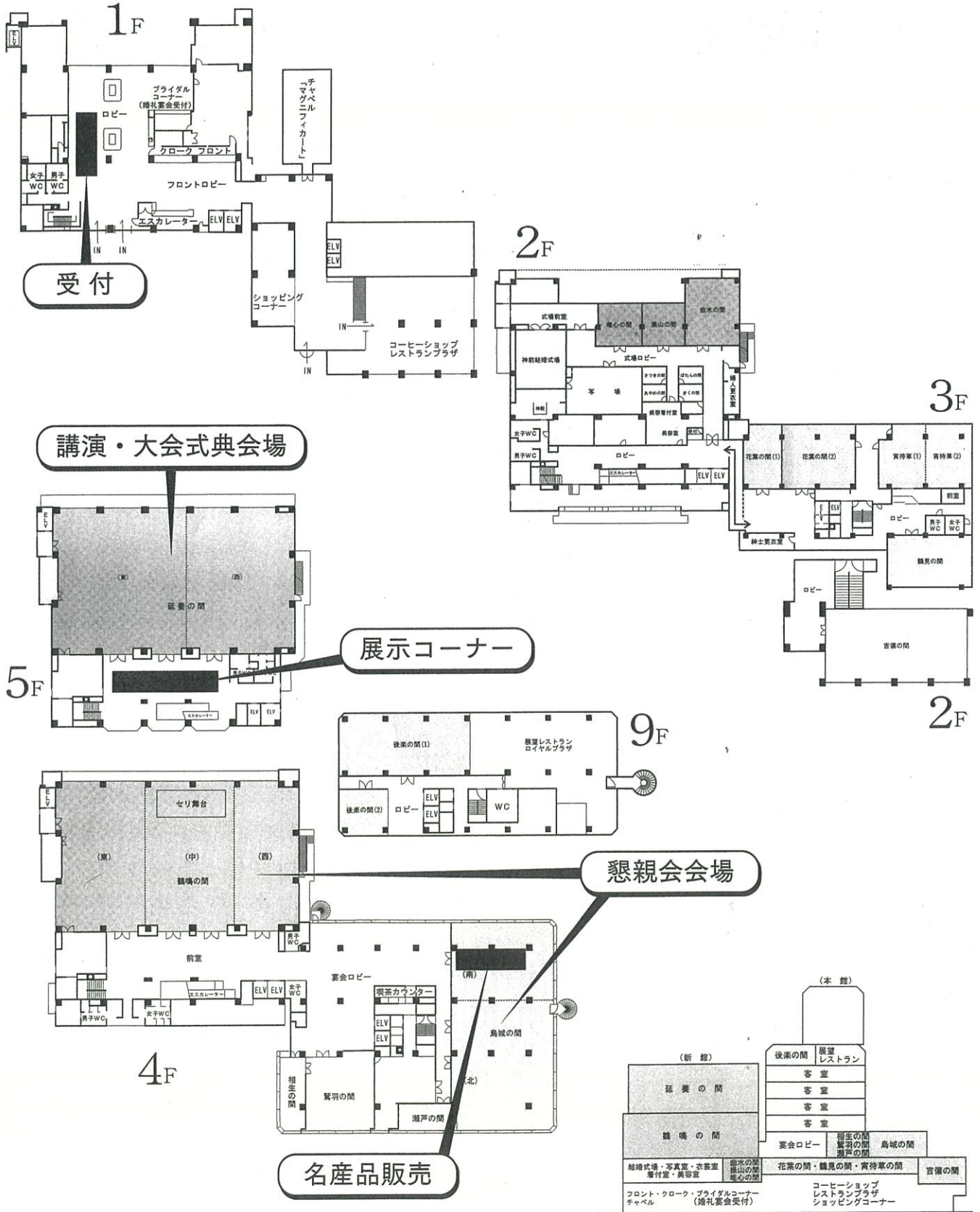
備中神楽

備中神楽は神事を中心とした「神事舞」と神話を基に劇風に創作された「神能」に大きく分けられる。榊舞から猿田彦舞までが神事であり、祭典の延長として神殿を清め八百万の神々を勧請し豊作に対する感謝と家内安全、世界平和などを祈念する。

本日は、備中神楽のクライマックスのオロチ退治を演じます。(オロチを退治し、その胴より出てくる剣こそ天皇家に伝わる神器のひとつ「天の群雲の宝剣」で、日本の製鉄文化の夜明けであります。)

- 一本締め
- 閉会の辞

岡山プラザホテル会場見取図

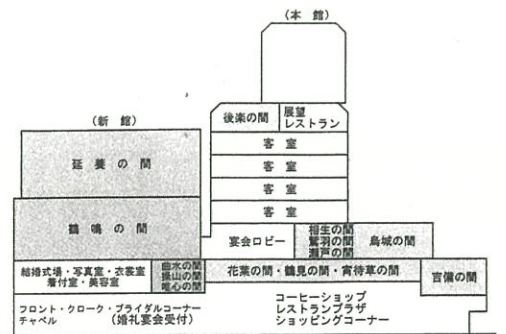


講演・大会式典会場

展示コーナー

懇親会会場

名産品販売



後楽園内のご案内



岡山後楽園は、江戸時代を代表する大名庭園のひとつです。

延養亭や能舞台を中心とした亭舞台を中心とした亭舎、園内各所におかれた茶室や祠には、歴代藩主の思いが込められています。

広い芝生地や池、筑山、茶室が園路や水路で結ばれ、歩きながら移り変わる景色を眺めることができるよう工夫された回遊式庭園です。

後楽園入園、茶・休憩所のご案内

後楽園の入園、茶・休憩所のご利用は、受付で無料入園券及び茶・休憩所利用券をお渡しいたします。

後楽園の散策と休憩所として、下記の施設でお茶（抹茶、黒豆茶、冷茶）をご用意いたしております。

- 10月19日（金）（午前9時～午後4時）

後楽園内の「鶴鳴館」

- 10月20日（土）（午前9時～正午）

後楽園内の「廉池軒」





第5回全国環境連全国大会

—浄化槽が拓く循環型社会づくり—

岡山県環境整備事業協同組合
(〒701-0202 岡山市山田291-2)

TEL 086-282-6455
FAX 086-282-6685

